

次に、前回の人口増加率と今回の人口増加率の相関関係をみると、前回増加で今回も増加が17市59町村、前回増加で今回減少が1村、前回減少で今回増加が1町、前回減少で今回も減少が1市13町村である。また、増加率が前回より上回ったのが、2市29町村で、逆に下回ったのが16市45町村である。前は、増加率が100%を超えるというような大きな伸びを示した市町村が2町村(桜村、荃崎町)あったのに対して、今回は、人口が前回より2倍になるような高い増加率を示す市町村はないが、依然、土浦以南の常磐線沿線及び研究学園都市の市町村の伸びが他市町村に比べて高いのは変わらない。特に、利根町(増加率37.4%)、守谷町(同35.7%)、荃崎町(同33.9%)の30%を超える増加率は顕著である。逆に減少を示したのは県北地域の水府村(△4.8%)が最も大きく、以下里美村(△4.5%)、大子町(△4.4%)、美和村(△4.0%)、緒川村(△3.5%)などである。これらの町村の減少率を前回のそれと比べると、前は△5%を超えている町村もあったが、今回は△5%以内の減少にとどまっている。(図-2、表-6)

次に、昭和60年10月1日現在の市町村の人口規模をみると、20万人以上が水戸市(228,985人)、日立市(206,074人)の2市で、10万人以上20万人未満が土浦市(120,175人)、勝田市(102,763人)で、5万人以上10万人未満が5市1町(取手市、下館市、古河市、結城市、牛久町、北茨城市)で、3万人以上5万人未満が9市11町村で、1万人以上3万人未満が45町村、1万人未満が17町村となっている。

特に、今回、勝田市が10万人を牛久町が5万人を超えたのが顕著である。

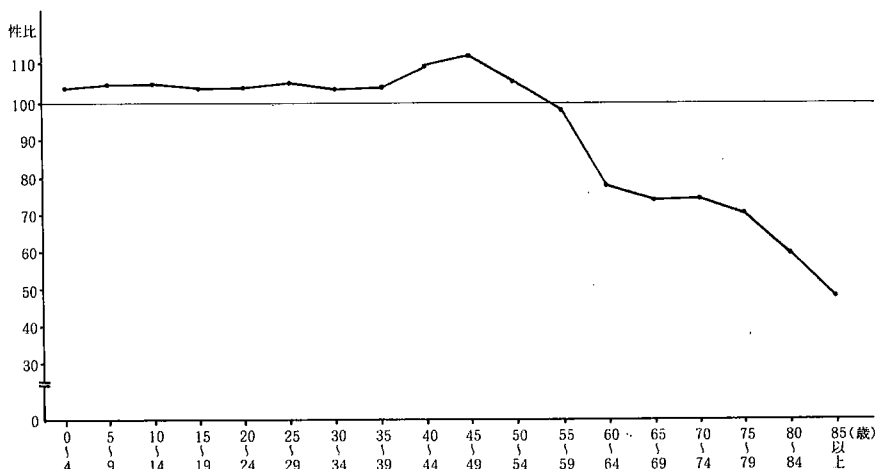
2 人口の基本的属性

(1) 男女別人口-性比-

性比の高い鹿行地域

県人口を男女別にみると、今回(昭和60年)は前回(昭和55年)より、男子が85,430人(増加

図-3 年齢(5歳階級)別性比 -茨城県(昭和60年)



表－7 地域別性比状況（昭和60年）

性比	県北地域(98.0)	鹿行地域(101.0)	県南地域(100.9)	県西地域(98.9)
110以上			桜(126.2)	
110～105	小川(109.3)	鹿島(108.2)	谷田部(109.1) 千代田(107.0)	総和(105.3)
105～100	東海(104.9) 勝田(103.0) 七会(102.7) 日立(101.2) 茨城(100.9)	神栖(103.8) 波崎(101.8) 大野(100.3)	大玉(103.5) 美浦(103.1) 里(101.7) 牛久(101.0) 電ヶ崎(100.6) 阿見(100.5) 取手(100.2) 守谷(100.3)	猿島(101.4) 岩井(101.1) 霞(100.4)
100～99.3		大洋(99.6) 北浦(99.4)	荃崎(99.9) 新治(99.4)	境(99.6) 三和(99.5) 関城(99.4)
99.3				
99.3～95	内原(98.4) 北茨城(98.2) 方(98.2) 美和(98.1) 常北(97.5) 緒川(97.5) 岩間(97.4) 那珂(97.4) 友部(97.2) 美野里(97.1) 高萩(96.6) 御前山(96.6) 十王(96.6) 里美(96.5) 常澄(96.3) 水戸(95.5) 大子(95.5) 岩瀬(95.3) 水府(95.2)	牛堀(99.2) 銚田(98.4) 玉造(98.0) 旭(97.6) 麻生(97.5) 潮来(95.0)	土浦(99.2) 伊奈(99.1) 八郷(98.6) 豊里(97.9) 谷和原(97.6) 藤代(97.5) 江戸崎(97.3) 出島(97.3) 新利根(96.9) 河内(96.8) 石岡(96.3) 東(96.3) 利根(96.2) 筑波(95.2) 桜川(94.6)	下館(98.6) 千代川(98.6) 下(98.6) 明野(98.3) 妻(97.9) 八千代(97.8) 古河(97.7) 結城(97.4) 水海道(97.2) 大和(97.2) 協和(96.9) 真壁(96.2)
95～90	笠間(94.9) 大洗(94.6) 金砂郷(94.5) 那珂湊(94.4) 大宮(93.6) 桂(93.4) 常陸太田(93.1) 瓜連(90.2)			
90未満				

注 1) 99.3は茨城県の性比
2) 表頭の()は地域の性比

率6.7%)、女子が81,568人(同6.3%)それぞれ増加して、男子1,357,963人、女子が1,367,042人となった。この結果、性比(女子100人に対する男子の割合)は99.3となり前回(99.0)より0.3ポイント上昇している。

また、年齢5歳階級別にみると、0～4歳階級～35～39歳階級ではほぼ105前後の性比を示し、40～44歳階級で109へ上昇し、45～49歳階級が111と最も高くなっている。その後、60～64歳階級まで急激に低下し、60～64歳階級～70～74歳階級は75前後の推移を示すものの、それ以後は再び、急激に低下している。(図-3)

この性比について、4地域別にみると、鹿行地域が101.0と最も高く、以下県南地域(100.9) 県西地域(98.9)、県北地域(98.0)となっている。鹿行地域は鹿島町が108.2と地域内で最も高く、100以上(男子の人口が女子の人口より多いことを意味する)が4町村で、100未満(男子の人口が女子の人口より少ないことを意味する)が8町村となっている。県南地域についてみると、100以上の市町村は人口増加率の高い市町村とほぼ一致しているのが特徴的で、特に桜村の126.2は県内市町村で最も高い数値である。

県西地域は100以上が総和町(105.3)、猿島町(101.4)、岩井市(101.1)、五霞村(100.4)の1市3町村で、他の5市10町村は100未満の市町村である。

県北地域は他の地域よりも性比が最も低くなっているが、これは県の性比(99.3)を下回る市町村が他地域より多く、特に、他地域ではみられない95以下の市町村が2市6町村もあることによると思われる。(表-7)

表-8 年齢（3区分）別人口割合の推移 -茨城県-

年次	総数	0～14歳				15～64歳				65歳以上			
		計	%	男	女	計	%	男	女	計	%	男	女
昭和25年	2 039 418	747 393	36.6	378 948	368 445	1 179 360	57.8	568 208	611 152	112 529	5.5	46 466	66 063
“ 30 “	2 064 037	728 700	35.3	370 334	358 366	1 212 400	58.7	584 442	627 958	122 899	6.0	51 303	71 596
“ 35 “	2 047 024	672 204	32.8	341 935	330 269	1 240 591	60.6	601 442	639 149	134 229	6.6	56 807	77 422
“ 40 “	2 056 154	580 171	28.2	294 256	285 915	1 327 621	64.6	650 012	677 609	148 362	7.2	63 584	84 778
“ 45 “	2 143 551	534 225	24.9	272 020	262 205	1 440 059	67.2	708 814	731 245	169 267	7.9	73 169	96 098
“ 50 “	2 342 198	580 187	24.8	296 481	283 706	1 565 349	66.8	778 454	786 895	196 380	8.4	84 594	111 786
“ 55 “	2 558 007	628 466	24.6	321 624	306 842	1 692 449	66.2	850 348	842 101	236 485	9.2	100 144	136 341
“ 60 “	2 725 005	617 512	23.0	321 008	306 504	1 818 697	66.7	922 091	896 606	278 503	10.2	114 682	163 821

注) 総数には年齢不詳を含む。

(2) 年齢別人口

老年人口の割合が1割を超える

昭和60年10月1日現在の人口2,725,005人を年齢3区分別にみると、年少（0～14歳）人口、617,512人、生産年齢（15～64歳）人口、1,818,697人、老年（65歳以上）人口、278,503人となっている。この結果、県人口に占める割合はそれぞれ、23.0%、66.7%、10.2%であり、今回、老年人口割合が前回（9.2%）より1.0ポイント上昇し、1割を超えたのが特徴的である。

（表-8）

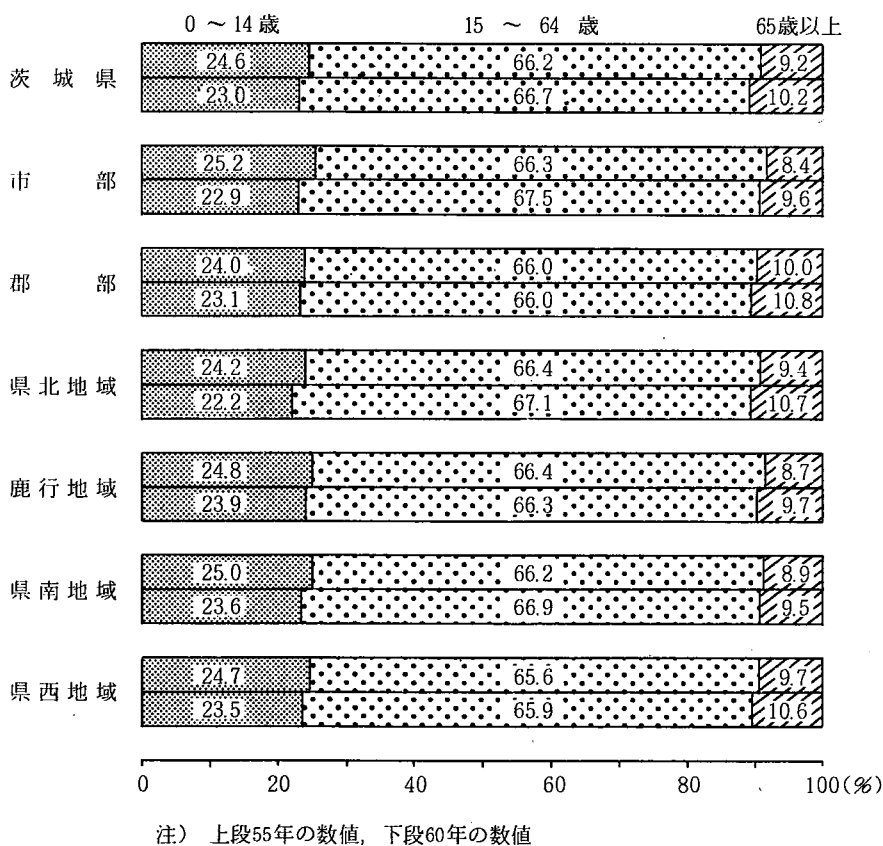
本県の3区分別人口割合を昭和25年より今回までみると、年少人口割合は、昭和25年に36.6%を占めていたが、ゆるやかに低下し、昭和40年には30%を割り28.2%となり、その後も低下し、昭和45年以後24%台の割合で低下傾向を示しながら推移し、今回は前回より1.6ポイントの低下を示し、23.0%となっている。

生産年齢人口は、昭和25年には57.8%であったが、昭和30年、35年には、それぞれ前回より0.9、1.9ポイントの漸増を示し、さらに昭和40年には4.0ポイント、昭和45年には2.6ポイント、それぞれ上昇したものの、昭和50年、55年では、それぞれ前回より0.4ポイント、0.6ポイント微減に転じ、今回、再び上昇した。

老年人口割合は、昭和25年には5.5%であったものの、その後の各回の調査で前回より0.5～0.8ポイントの上昇を示し、今回はさらに前回より1.0ポイント上昇し、県人口の1割を超え10.2%となっている。

次に3区分別人口割合を4地域別にみると、年少人口割合では鹿行地域が23.9%で最も高く、以下、県南地域（23.6%）、県西地域（23.5%）、県北地域（22.2%）となり、どの地域についても、年少人口の低下傾向がみられ、今回は前回より0.9～2.0ポイントの低下となっている。生産年齢人口割合では県北地域（67.1%）、県南地域（66.9%）、県西地域（65.9%）でそれぞ

図-4 地域，年齢（3区分）別人口割合（昭和55年，60年）



れ、前回より上昇しているが鹿行地域のみが0.1ポイントの低下である。また、老年人口割合は、今回、1割を超えたのが、県北地域（10.7%）、県西地域（10.6%）であり、他地域についても鹿行地域が9.7%、県南地域が9.5%と1割に近づいている。（図-4、表-8、表-9）

人口の年齢構成の変化に応じて年少人口指数，老年人口指数，従属人口指数，老年化指数も変化している。そのうち、従属人口指数の推移についてみると、昭和5年の79.9からゆるやかに低下傾向を示し、昭和45年には5割を下回り、48.9と最も低い数値となったが、その後、50.0前後の横ばい状態で推移し、今回は前回（51.1）より0.3ポイントの低下にとどまり49.8となっている。

また、年少人口に対する老年人口の割合を示す老年化指数についても、昭和5年（15.1）から昭和35年（20.0）まではゆるやかな上昇を示しているが、昭和40年（25.6）からは、昭和45年31.7、昭和50年33.8、昭和55年37.6とその上昇が加速化してきており、今回も、前回より6.8ポイント上昇し、44.4となっている。（図-5）

表-9 年齢(3区分)別人口割合の高い(低い)市町村(昭和60年)

年少人口割合

高い市町村	割合(%)
荃崎町	30.5
利根町	29.1
三和町	27.7
守谷町	27.4
牛久町	27.3
鹿島町	27.1
伊奈町	26.2
取手市	26.1
神栖町	25.9
藤代町	25.6

低い市町村	割合(%)
金砂郷村	16.6
水府村	16.7
緒川村	17.7
山方町	18.0
河内村	18.0
桂村	18.3
里美村	18.3
美和村	18.5
瓜連町	18.7
大子町	19.2

生産年齢人口割合

高い市町村	割合(%)
桜村	72.8
古河市	69.6
谷田部町	69.2
土浦市	68.4
水戸市	68.4
日立市	68.3
勝田市	68.3
阿見町	67.8
総和町	67.7
東海村	67.6

低い市町村	割合(%)
御前山村	62.7
利根町	62.8
荃崎町	63.1
七会村	63.1
緒川村	63.2
大和村	63.2
里美村	63.6
八千代町	63.8
桂村	63.9
守谷町	63.9

老年人口割合

高い市町村	割合(%)
水府村	18.3
金砂郷村	18.3
里美村	18.1
御前山村	17.8
桂村	17.8
瓜連町	17.0
美和村	16.8
大子町	16.3
七会村	16.1
筑波町	15.4

低い市町村	割合(%)
桜村	4.4
鹿島町	6.1
取手市	6.3
荃崎町	6.5
勝田市	6.7
神栖町	6.9
総和町	7.1
牛久町	7.1
東海村	8.0
千代田村	8.1

平均年齢の高い(低い)市町村

高い市町村	年齢(歳)
緒川村	42.9
水府村	42.7
金砂郷村	42.3
里美村	42.0
山方町	41.5
御前山村	41.2
桂村	41.0
美和村	40.9
大子町	40.9
七会村	39.8

低い市町村	年齢(歳)
桜村	29.4
鹿島町	31.5
荃崎町	31.6
勝田市	32.1
取手市	32.2
神栖町	32.2
総和町	32.4
三和町	32.4
牛久町	32.7
利根町	32.9

図-5 年齢別構成指数の推移 — 茨城県 —

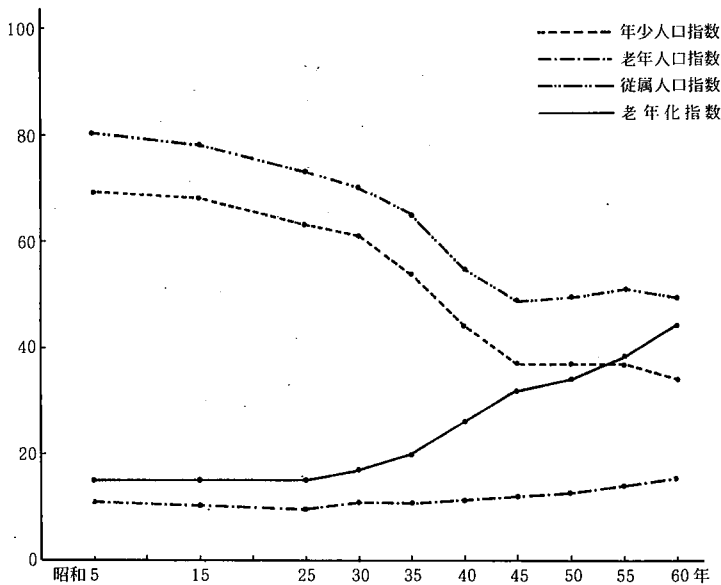
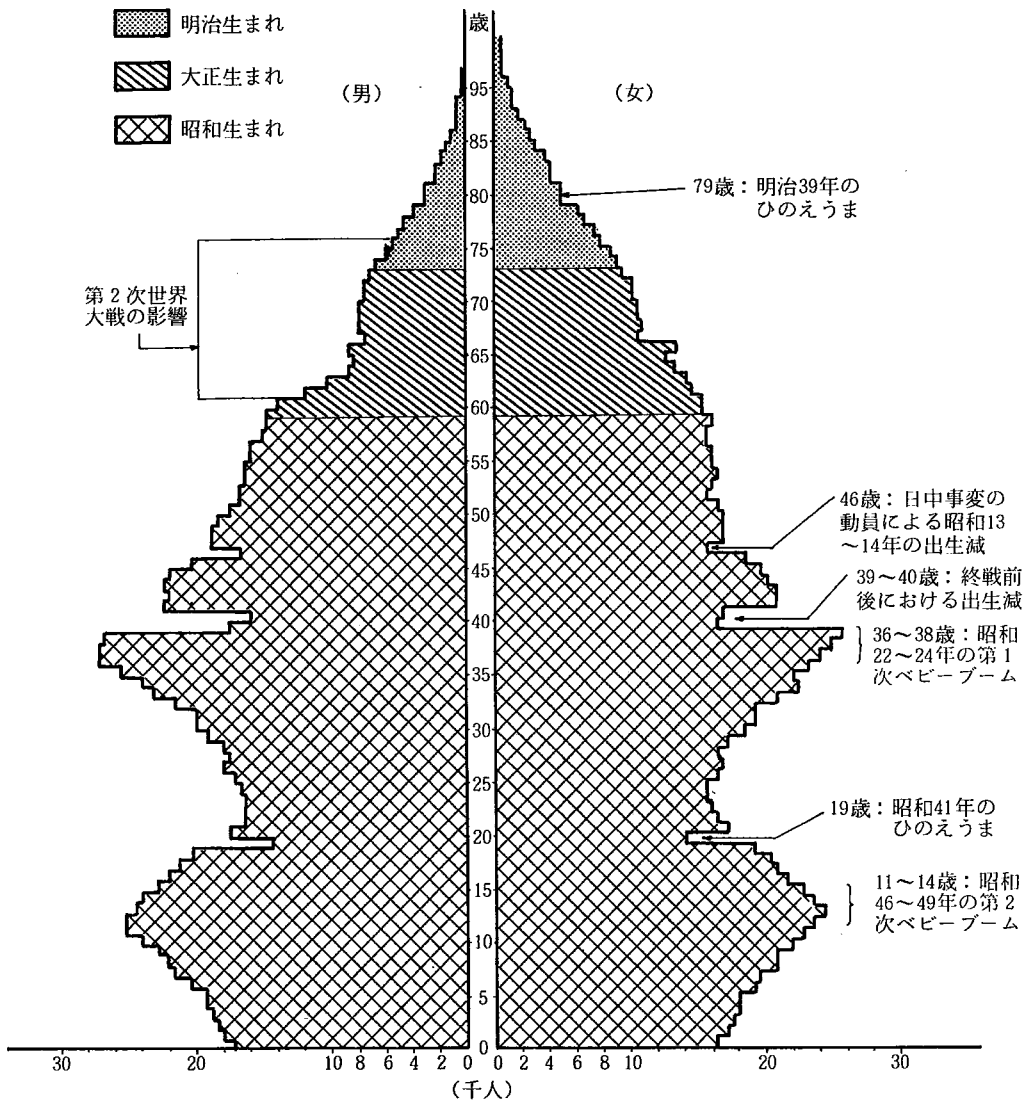


図-6 茨城県の人口ピラミッド（昭和60年10月1日現在）



次に昭和60年10月1日現在の茨城県の人口ピラミッドをみると、昭和46～49年の第2次ベビーブームの11～14歳人口をピークにその後、出生率の減少により、年齢が下がるとともに人口が減少し、今回は人口減退型の様相を示している。

県人口を明治（1868～1912年）、大正（1913～1925年）、昭和（1926年～）生まれで区分すると、昭和生まれが2,293,446人（男1,174,624人、女1,118,822人）で全体に占める割合は84.2%と最も多い。次に大正生まれが315,347人（男137,615人、女177,732人）、11.6%で明治生まれが115,919人（男45,542人、女70,377人）、4.3%となっている。（図-6）

表-10 年齢別構成指数の高い(低い)市町村(昭和60年)

年少人口指数

高い市町村	指数
荃崎町	48.3
利根町	46.4
三和町	43.2
守谷町	42.8
牛久町	41.7
鹿島町	40.6
伊奈町	40.1
藤代町	38.8
取手市	38.7
神栖町	38.6

低い市町村	指数
金砂郷村	25.4
水府村	25.8
河内村	26.9
山方町	28.0
緒川村	28.1
美和村	28.6
桂村	28.7
里美村	28.9
新利根村	29.0
瓜連町	29.1

老年人口指数

高い市町村	指数
緒川村	30.1
御前山村	28.4
里美村	28.4
水府村	28.2
金砂郷村	28.0
桂村	27.8
山方町	27.6
瓜連町	26.5
美和村	26.0
七会村	25.6

低い市町村	指数
桜村	6.0
鹿島町	9.2
取手市	9.3
勝田市	9.7
神栖町	10.3
荃崎町	10.3
総和町	10.4
牛久町	10.9
東海村	11.9
千代田村	12.0

従属人口指数

高い市町村	指数
御前山村	59.5
利根町	59.3
荃崎町	58.6
七会村	58.5
緒川村	58.2
大和村	58.2
里美村	57.3
八千代町	56.6
桂村	56.5
守谷町	56.4

低い市町村	指数
桜村	37.3
古河市	43.7
谷田部町	44.4
土浦市	46.1
水戸市	46.1
日立市	46.3
勝田市	46.5
阿見町	47.4
石岡市	47.9
取手市	48.0

老年化指数

高い市町村	指数
金砂郷村	110.2
水府村	109.5
緒川村	107.4
里美村	98.5
山方町	98.5
桂村	97.1
御前山村	91.5
瓜連町	91.2
美和村	90.8
大子町	85.0

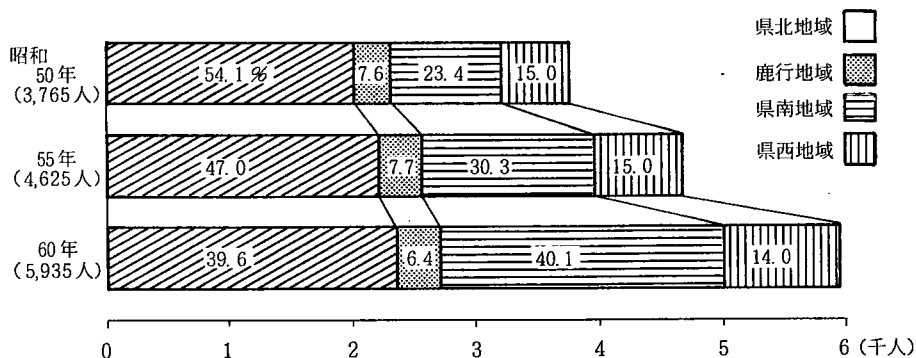
低い市町村	指数
桜村	19.3
荃崎町	21.3
取手市	22.4
鹿島町	22.6
牛久町	26.0
勝田市	26.6
神栖町	26.6
利根町	27.8
総和町	27.9
三和町	30.0

(3) 国籍 — 外国人人口

外国人は県人口の0.2%で5,935人

昭和60年10月1日現在本県に常住する外国人(外国国籍をもつ人)は5,935人(男子2,977人,女子2,958人)である。これは前回(昭和55年)より、数で1,310人、率で28.3%の増加で

図-7 地域別外国人人口(割合)の推移(昭和50年~60年)



ある。この増加を地域別にみると県南地域の978人（増加率69.9％）が最も高く、以下、県北地域170人（同7.8％）、県西地域132人（同19.0％）、鹿行地域26人（同7.3％）の順となっている。この結果、4地域における外国人の占める割合は県南地域が今回、県北地域を上回って、最も多い2,378人（全体のうち40.1％）となり、以下、県北地域2,349人（同39.6％）、県西地域828人（同14.0％）、鹿行地域380人（同6.4％）の順となっている。（図-7）

次に市町村別にみると、外国人人口の1割以上が常住している市町村は桜村（842人）、水戸市（841人）、日立市（622人）の2市1村となっている。また、100人以上の外国人が常住している市町村は、そのほか土浦市（381人）、谷田部町（273人）、取手市（209人）、下館市（182人）、勝田市（170人）、神栖町（119人）、北茨城市（111人）、古河市（109人）となっている。特に今回、増加の多かった市町村は、桜村（552人増）、谷田部町（126人増）、勝田市（89人増）、取手市（72人増）、土浦市（63人増）などである。

また、今回の外国人を国籍別にみると、韓国、朝鮮が3,919人（割合66.0％）と最も多く、以下、中国777人（同13.1％）、アメリカ261人（同4.4％）の順となっている。

3 人口の社会的属性

(1) 配偶関係

若い年齢層で未婚率が上昇

昭和60年10月1日現在における15歳以上人口の配偶関係をみると、男子は15歳以上人口

図-8 年齢（5歳階級）、男女別人口及び有配偶者数 — 茨城県
（昭和40年，昭和60年）

